

第38回生らくご会

川柳 & 小せん ガーコンリレーの会



■席亭より一言

今回の企画は、私なりのこの夏の「平和企画」です。

「ガーコン」は、川柳師匠自作の新作落語で、歌で綴る昭和史です。戦前から戦中、そして戦後の流行歌を通して昭和という時代を描くこの新作落語を、戦中派の川柳師匠と戦後世代の小せん師匠のリレーでお楽しみいただきます。もちろん、両師匠の美声に理屈抜きで酔いしれていただくのがメインですが、そんな笑いの中にも、ふと、昭和とは、戦争とは、平和とは、戦後日本とは、そんなことを考えるひとときを持ってたら、と思っています。

「ガーコン」を筆頭に「ジャズ息子」など新作派のイメージが強く、また、お酒が大好きで、酒の上での武勇伝にも事欠かない川柳師匠ですが、なんと！あの昭和の名人、六代目三遊亭圓生の弟子である不思議も感じていただけたら幸いです。

落語とは、かくも多様かつ懐の深い芸なのです。

「広島で生の落語を聴く会」代表 上村 里花

2017年9月9日(土)

15時開演(14時30分開場)

木戸銭

シングル 3,800円 (当日4,000円)

ペア 7,400円 (予約のみ)

※学生料金あり。全席自由席。整理券の配布あり。

会場

広島工業大学 広島校舎
5階ホール (中区中島町)

<プロフィール>

●川柳川柳 (かわやなぎ・せんりゅう)

1931年生まれの86歳。埼玉県秩父市出身。55年、六代目三遊亭圓生に入門。前座名「さん生」。58年、二つ目昇進。74年、真打昇進。圓生一門の落語協会脱退騒動に伴い、78年に五代目柳家小さん門下へ移り、「川柳川柳」と改名。二つ目時代には、ソングレオ姿で「ラ・マラゲーニャ」など歌を絡めた小咄で売れた。落語界唯一のラテンシンガー(笑)。無類の酒好きで、酒で師匠をしくじったこと多数。自他共に認める、「落語界のシルバースター」！ 出囃子は「三味線ブギ」。当会2度目の出演。

●五代目柳家小せん (やなぎや・こせん)

1974年、横浜生まれ。97年、鈴々舎馬桜に入門。前座名「わか馬」。2000年、二つ目昇進。06年、鈴々舎馬風門下に移り、10年、真打昇進と同時に、五代目柳家小せんを襲名。学生時代は吹奏楽部に所属し、現在も趣味は音楽関係全般。入船亭扇辰、橘家文蔵とともに音楽ユニット「3K辰文舎(さんけいしんぶんしゃ)」を結成、落語ライブも開催している。当会には3度目の出演。



チケットのご予約・お問合せ TEL/090-9570-4579(上村) mail/namarakugo@ae.auone-net.jp

■主催■ 広島で生の落語を聴く会 詳しくは当会告知ページまで <http://sat3.jp/namarakugo/>